

～人間ドック体験記～

井上 忠純

妻に言われて、20年ぶりくらいに人間ドックを受診した。
2泊3日コース（9万円弱）を予約。不整脈治療を受けている北海道大野病院に1月27日から29日まで入院した。

朝食抜きで朝9時半前に検診室に入ったら、満員の状況で驚いた。聞けば個人以外に企業の健康診断が入っているという。

まずは基礎調査。身長、体重、腹囲、視力、聴力、血圧の測定と採血をされる。
胸部X線影とエコー検査、肺野機能検査がある。
安静時心電図検査、血圧と脳波検査。

この後、鼻から初の胃カメラ検査。鼻への麻酔薬噴射は苦い味がする。
検査室で医師が器用に器具を操りながら胃袋を視る。
モニターテレビで初めて自分の胃の中を見た。「綺麗ですね」と言われてほっとする。
10分ほどで終わった。

午後に人間ドック担当の女医の診察と聴診。
水泳とジムで週5日の運動実行という、褒められる。全般的に問題はないらしい。
たまたま女医が義妹の医師の後輩だった。「とてもお世話になったので宜しく伝えて」といわれる。後日義妹に聞いたら「良く食事した仲だ」という。
肺野CT検査後、初日は終了。

午後9時、錠剤と水の二種類の下剤を飲む。
持ち込んだ携帯ラジオや備え付けのテレビで時間を潰す。早めに就寝。

55歳の成人病検診で不整脈と緑内障が見つかり、ずっと治療を受けているので、眼底や眼圧検査、心エコーはキャンセルとなる。

二日目は朝7時からムーベン2ℓを時間をかけて飲む。甘みがあるので飲みやすい。
下剤とムーベンの薬効で大腸の中が空になる。しまいには肛門から尿をするような感じで何回も水分が出た。ちょっと異常な体験だ。
朝食、昼食抜きなので、お茶ぐらいしか飲めない。

午後1時半から大腸カメラ検査に入る。
初めは左向き、カメラが入るにつれて、仰向け、右向きと体位を変えるよう看護師から指示される。
モニターテレビで見るが、しまいにはどの部分なのか良く分からなくなる。医師はここは盲腸近くとか教えてくれるが、どこも似たようにしか見えない。

お腹の中をケーブルで突っ張る感じが分かる。早く終わってくれと思うばかりだ。1時間ほどかかったのには参った。「ポリープ等の異常はないですよ」と医師に言われて安心した。

血液をサラサラにする薬を飲んでいるので、万一手術となると再入院が必要になるのは困る。良かったと心から思った。

この後24時間心電図を録るホルターを付ける。

昔と違い進化して、とても小型化している。午後2時半過ぎに昼食となった。

二日目は他にすることがなく、退屈な時間だけが過ぎていく。持ち込んだラジオでFMを聴く。一応勉強しようと新華字典は持ってきたが、何故か開く気がしない。

夕食後はテレビ漬け。午後9時過ぎに寝たが、朝3時前には目が覚めた。

最終日は75^歳 G T T検査だ。

甘いソーダー水を飲み、時間をおいて4回採血された。

午前中で全ての検査は終了、昼食を摂ってから退院した。

これでもう、人間ドックの必要はないと決めた。少し高かったが、安心料と思えば安いもの。

問題ない結果となった最大の理由は、栄養管理に気をつけてくれた妻の手料理だ。改めて感謝の気持ちが湧いた。